

巻頭言

さあ今年も暖かい4月となりました。日本では正月元旦を除いてたいていの場合4月1日が年度始めということになっています。欧米をはじめとして世界では9月を年度の切り替え月に行っているところが多いらしいけど、まあニッポン人日本人桜も咲く頃だし、だんだん暖かくなるし4月スタートで良いよねー。ところで障ちゃんニュース今号から少し様子が違います。なっとなんとこの格調高い巻頭言が表紙になっているではあ〜りませんか。せっかく表紙の裏側でこのニュースの糸を引いていたのに表にさらけ出されるようになってしまいました。あのでっかい顔の表紙が懐かしい……。取りあえず心機一転のスタートです。

それではみなさん花見見物でもしながら読んでください。

「紙面が新しくなりました」

編集担当 八木勝自

今回の「障ちゃんニュース」から紙面を新しくなりました。

何故かという見た目もスマートになりましたが、これまでの表紙と裏表紙の1ページずつでわかる人にはわかると思いますが、ページ数が4で割れる数字でしか紙面編集出来なく、自由にページの割り振りやレイアウトが出来なかったのです。

編集会議で以前から言っていたのですが、なかなか口だけではなかなかわかってもらえず、前回号で試しとして一つだけ見本を作って、皆に見せたところ、これで良いということになりました。

そして、前回より文字の指定が書いた人から指定がない限り、より多くの人が見やすく読みやすいとされているユニバーサルデザイン書体にあります。これからデータで原稿を送って下さる人の字体の指定がない限り、ユニバーサルデザイン書体でいきたいと思っています。

また、これまでデータで送られてきた原稿には、こちらで考えた挿絵などを勝手に入れさせてもらっていますが、これまでも自分のデータに挿絵を入れてくれた人もいたので、挿絵が不要の時は挿絵不要や自分の気に入った挿絵や自分の書いたものがあれば、それをデータとして一緒に送って下さい。

何だか堅苦しい新紙面の挨拶になりましたが、これからもできるところは創意工夫をして、より良い「障」ちゃんニュースの紙面にしていきますので、よろしくお願いいたします。

DVD 上映会報告

去る2月19日(金)の夜に「奇跡のひと」～マリーとマルグレット～という映画をみんなで観ました。2月半ばなので雪が降ったり、天候が悪かったりして、参加者が少ないのではないかと心配していましたが、雪もなく、晴れていたのもまああの人数でした。

さて、映画の内容は、19世紀末のフランスの田舎で実在した人物の話です。マリーという少女多重障害(視覚・聴覚)がおり、両親はどうしたら良いかわからなくて聴覚障害児・者が暮らす修道院に預けようとやって来たのですが、院長は、視覚障害があるという理由で断ってしまいます。しかし、修道女のマルグレットは不治の病気でもう命が短いと知っていて、自分の人生をかけて教育しようと、院長を説得してマリーを歩いて迎えに行きます。マリーは、両親から引き離されて、大暴れし続けて、嫌なことや追い詰められたら、木の上に登って降りてこないというマリーでした。

さすがのマルグレットも根を上げかけましたが、友達に励まされて、続けていくうちに少しずつマリーが心を開き始めていきます。お風呂、着替え、靴を履く、髪をとかす事も大変な抵抗をしていました。物を触って何かを覚えさせる。手話を覚えるなど、1年以上かけてしつけや教育をしました。

ある日、両親がマリーに会いに来て、成長した娘を見て泣いていました。マルグレットは、親子の絆の深さにショックを受けましたが、自分が死ぬ前にすべてを教えなければいけない。人の「死」についても教えておかなければならないと思っていました。ある時、他のシスターが亡くなったので、マルグレットはマリーに「死」がどういうものなのか、説明して教えました。マルグレットの病状が悪化して修道院から離れた所に静養しに行ったのです。そのことをマリーに教えてなかったので、探し回っていて食事も取らないので、マルグレットに友達が手紙を書きました。手紙を読んだマルグレットはそこから帰れるだけの薬をもらい、帰って来たのです。

マリーは、「どこに行っていたのか」と、怒ってマルグレットを叩き、最後は抱き合い、お互いの信頼関係を確認していました。そして、マリーは、マルグレットの看病をしていましたが、病状が悪化して自分の死が近いと悟った時にマリーを部屋に入れなくてくれとシスターに頼みました。マルグレットは、まだ死を受け入れる準備が出来ていないが、マリーは出来ていることを知らされて、二人は再会しました。

マルグレットの死後も他のシスターからいろんなことを学び続けて、マリーは大人になっても修道院に残り、同じ多重障害を持つ人たちを導く役割を果たして36歳の若さで生涯を閉じたという話でした。

私は、この映画を観ながら、今の時代だったら、いろんな情報が入るから両親も自分の子供をどうやって育てて行けば良いか、相談するところもあるけど、この時代で、交通機関が馬車か歩くしかない、田舎で、近所というものもない状態だったら、どこかに預けるしか思いつかなかったのだろうと思いました。

また、手話をどうやってマルグレットが教えるのかと思って観ていたら、自分自身が耳栓をして、目隠しをして歩いてみるという事を体験して考えたりしていたのと教える時の根気強さは、すごいと思いました。

現在では、指点字というものがあるようですが、この時代にはまだなかったのだろうと思いました。

それと、人と人との出会いは、その人の人生を良い意味でも、悪い意味でも本当に変わるものだと思います。これは、一人一人の運命というものなのでしょうか？

人との出会いを大切にしていかないとと思いました。マリーがマルグレットに出会わなかったら、家の中で一生を過ごしていたかも知れません。マルグレットもマリーと出会わなかったら、死を待つだけの人生だったかも知れませんね。

最後にこの映画を観られた人たちの感想も聞いてみたいと思っています。また、見逃した人たちには、ぜひ、見てほしいと思っています。本当に良い映画でした。

(河上アパッチ)

イブにゃんお花見 ver.

今年の3月ももう終わる。早いもので来たる4月…。そう来たる4月にイベントをやります。今年度の夢宙人は動きが早いぞ!!あの企画が装いを新たに登場だ!!

知ってる人は知っている企画…それが最近始まった「店呑み企画 イブにゃん」シリーズ。それに今回はお花見がついてきます。否、お花見にイブにゃんが付いてきます!!

花見…この頃夢宙人では花見をしていない…。久々に見たい。そして飲みたい…。でも普通に花見をして飲むのでは何か物足りない…。実は自分の中で、皆でするお散歩はけっこうなお気に入りだったりする。それらが重なり合って、そして皆が話し合っただけの出来たのが、ちょっと変わったお花見。店飲みがしたい!!というよりもお花見がしたい!!から始まりました。

集合場所に皆で集まった後、お店へ出発!!途中、お花見をしながらお店に向かいます。その後でお店で飲む!!

という企画です。ありそうでなかった企画…。お花見をしながら飲むんじゃなくて、お花見をしてから飲みます。どっちがメインかはその人次第かも?

日時は下記の通りです。

日時 4月16日 17時～

場所 集合：サンシップとやま
(富山県富山市安住町5-21)
お店：名古屋コーチン十六夜

参加費 4000円+α

<当日の流れ>

17時 サンシップとやま集合・出発
お花見をしながら移動
18時 お店到着・飲み会・解散

詳しくは追々UPされていく夢宙人の「Facebook」や「ブログ」また、直接夢宙人までお問い合わせ下さい。



Penkoのおひとりさま
珍道中!! (part14)

Penko ステージで暴れる!?

昨年の12月と今年の3月に合唱団の方々とステージに上がる機会がありました。

- ・12月20日「第九 歓喜の夕べ」オーバード・ホール

以前からベートーベンの第九を歌ってみたいかった私は、所属している合唱団で団員を募集していると聞いて、申し込みました。ステージに車いすを上げる例がほとんどなく、主催者側・会場側に検討してもらい、出演させていただくことになりました。

第九の合唱団は男女混声（男：テノール ベース 女：ソプラノ アルト）期間限定で10月に結成され、結団式に出席しました。

他の合唱団の皆さん、一般の高校生から80代の男性までいて、指揮者・声楽家・東京交響楽団を含めると約400名の大所帯になったそうです。

毎週日・木曜日が練習日で呉羽の芸術創造センターで行われました。主催者である富山県合唱連盟の先生のご指導のもと練習に励みました。

歌はドイツ語で、第1楽章から第4楽章まであり、合唱の部分は第4楽章で約17分歌うこととなります。しかも本番は暗唱です。（楽譜や歌詞見れないのです。）

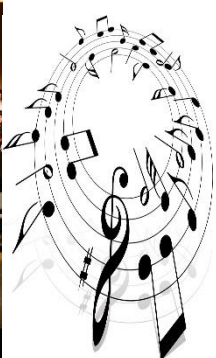
発声から始まり、各パートごとの練習、先生の脱線話!?など盛りだくさん。私はソプラノ担当でしたが、男性の合唱が素晴らしくて聞きほれていました。回を追うごとに他の方からも声を掛けてもらえるようになり、介助もしてもらいました。

この曲は音を伸ばすところがすごくて、頭のとっぺんまで響き、血管が切れそうでした。同じ合唱団の方にずっと付き添っていただき、歌のアドバイスや水分補給、当日はトイレと食事介助をお願いしてもらいました。

「本番を楽しもうよ」とみんなで話し合っていました。

さて当日ですが、会場の裏へまわり、控室や舞台に上がる時は階段がありました。主催者側や合唱団の男性の皆さんに協力してもらい、電動車いすごと持ち上げてもらいました。ありがたいことに多目的トイレも完備されていました。(入口がドアでした) 舞台袖は広くて一日をそこで過ごしました。

午前はリハーサルがあり、舞台に行きましたら、あまりの広さに圧倒されました。その後の本番ではお客さんがたくさん来られた時はもっと圧倒されました。しかも、指揮者と声楽家の方々がイケメンで「ラッキー!!」でした。(毎年変わるらしい…)



午後から本番、出番まで舞台袖で待機していましたが、待機中はずっと寝ていました。そして舞台上がり他の皆さんと、指揮者・声楽家・東京交響楽団とお客さんが一体となり、こんな体験はめったにないので気持ちよーく歌えることができました。

練習では「長い歌だなあ」と思っていたけれど、本番は「あっという間」でした。

本番のあと、解団式が行われて「皆勤賞」というものがあり、ワインまたは図書カードをもらわれた方がいらっしゃいました。私は練習に出られなかった日もあり、残念ながらもらえませんでした。

帰り道「燃え尽き症候群」らしき感覚になり、髪の毛はチリチリ、肌がかぶれ大変でした。友達の家で応急処置をしてもらいました。ですが、すごく最高な一日となりました。毎年あるそうなので、また機会があれば参加したいと思いました。

なお、今年は12月25日（日）に決定されたそうです。

興味を持たれましたら、ぜひ足を運んでみてはいかがでしょうか？

次回は3月に県民会館で行われた「定期演奏会」についてお話ししたいと思っています。

つづく

「若い頃からの虫歯がポロッと抜けた」

八木勝白

この頃、私は元気なのに、歳のせいか体調が悪い日々を送っています。去年の10月に肺炎にかかってしまい、それは一応治ったけれども、それからずっと何だか、そういう日々を送っていますが、私の20代の頃には、私のような重度の脳性麻痺者は、せいぜい生きて40代だと言われていたので、62歳になった今は「まあ、こんなものかなあ」と思っています。

先日、若い頃からずっと残っていた右下の奥から2番目の虫歯がポロッと抜けてしまい、そこだけ真っ平になってしまいました。

この虫歯は、私が10歳から15歳まで在宅にいた頃の虫歯で、当時は、車いすを持っていなかったり、持っていたとしても、歯医者建物は階段だらけで入れなかったり、治療室で医者が重度障害者である私を警戒したり、治療台に上がることもできず治療できなかったのではないかと思います。

そんな私も20代前半で施設から出て、地域で生きるようになって歯医者に行くようになり、虫歯を治したり、事故などで歯が折れたら差し歯や、今では入れ歯も2か所あり、かなり歯の治療をしていますが、どういう訳か、その右下の奥歯の奥の歯だけ抜かなかっただけでした。この歯は10年程前、歯の半分が自然に抜けて、歯の半分が残っていたような状態です。それが先日、寝る前に少し浮いてきて痛くなったから「明日でも歯医者さんに予約して、とうとう抜かなければいけないかなあ」と思っていたところ、その夜中に、ポロッと抜けてしまいました。

それを、これまで行っていた遠くの歯医者に見せずに、近くに出来た全国チェーンの歯科に見せたところ、私の思いと同じく「根っこも抜けていて、歯茎も平地のようになっているので何もすることがない。治療するとすれば、根っこが抜けているので差し歯は無理で入れ歯しかない。」と言われてしまいました。そう言われると、私は入れ歯が2本あるので、食事毎に、その入れ歯を自分で外せないの、介護人に外してもらい洗ってもらって、また嵌めるという事も「これが3本になると面倒だなあ。それに今

は前歯だから、簡単に入れたり外したりできるけれど、奥歯になるとどうなるんだろう」と思ってしまい、歯医者さんの「その歯がなくても一応バランスがとれている」と言うこともある程度信用して、放っておくことにしました。

でも、最後になります、何だか長年付き合ってきた奥の虫歯が、ポロッと抜けると、すごい喪失感があります。「長年その奥の虫歯を舌でいじくったりしていたからかなあ。」と思いますが、何で右の下の奥歯の虫歯は抜いて歯を埋め込んだり、他の歯も治療しているのに、左の下の奥歯だけが残っていたんだろう。たぶん、それは私が怖がりだったからだろうと思いつつも、不思議だなあと思っているこの頃です。それにしても、在宅にいた頃の虫歯を抜く事も治療することもできなかった痛みはすごかったなあと思っています。



第13回文福総会記念講演録最終回

「自立生活センターCom-support Project(福井)と今後の展望」

ここからはスタッフ育成部の説明をさせていただきます。社内研修も定期的開催しています。中身としては介助に入るスタッフを対象としたスキルアップ研修。介助者の技術の向上などを目的としています。あとまたスタッフも利用者も関係なくみんなと一緒に勉強する大きな研修もあります。「今年のCIL研修」と呼んでいるものなんですけど、今年の夏はまた他県のセンター代表の方にお越しいただいて、その県のセンターはどうなっているのか色々なことを話していただく予定です最後に、私が所属している介護派遣事業の説明を行っていきます。

ここはまた組織図を後から見られたらと思うんですけど、派遣管理部というのがあって、利用者さんの担当が集まっている部署です。介助に入って行く中で介護計画に関して利用者さんの相談とか必要な書類の整理であったり、こういう時どうすればいいのかなって悩みだったり、ヘルパーからの相談の対応も行っています。

吉田) ちょっと写真を戻すと自立生活プログラムやピアカン、自立支援部というのが組織図の中にあるんですが、自立したいとか興味あるわという、特に若い人たち学生さんとか集めて、個々にやってみたいことを取り組んでみようと、そういう体験プログラムとしてやっています。そして成人の方であったり、また自立した方にしてもやはりそれぞれの課題に対して一回やってみようよと。失敗も含めてまずはやってみようという体験をやってみたり、実際自立をしていく上での情報提供。先ほど言ったように自立支援の一環として、ピアカウンセリングというものここには含まれていると思います。こういう活動を通して、コムサポートは日々、活動を続けています。そのずっと活動を続けてる中で 私の課題、団体としての課題として、その当事者団体として常にあったのが、表に立っていく当事者がなかなか出てこないという中で運動を広めて行くことや団体の活動を盛り上げていく中でどう掘り起こしていくそこを担う人をどう刺激をしていくか、そういう人たちと、どう出会っていくか常に課題ではありました。

私自身も体が強いほうではないので、やはり、弱っていく中で一緒に語っていく伝えていく、困っているなっていうのを、勿論そこには健常者スタッフも含まれていますけど、困っている人がつくっていけるのかなということ、常に課題ではありました。社会に働きかけていく、運動を続けていく、でもそこにじゃあ自分が発信していくよという、そういう人がいなかったら始まらない。

どう育てていくか盛り上げていくか田舎であればあるほど、なかなかそこで表に

でていくよっていう人はなかなかないので、県内ってところにとどまらずに富山の文福さんにつながっていったのも、同じ北陸の中で似たような背景をもっていたり、そういう部分で教えていただきたいとか、協力していただきたいこととか、そしてもう一つ私達が横のつながりを増やしていきたいなと思っていました。そのコムサポートを道の駅のような場所にしていきたい、私はまだ元気。あの道の駅にしたい。障害者とか障害のない人だけでなく、いろんな人が溶け合う場所に、いろんな人が地域を作っているのと同じようにコムサポートにも立ち寄れるそんな場所にして行きたいなと思っていました。出来るだけ開放的な場所にしたいという思いで、そこで集まった人たちがやっぱりこういうところがあるんだとか、そうかこういう考えもあるんだ、ということを通じてそういう風に広がっていきなと思っていました。

なので福井にもし来られることがありましたらお気軽にコムサポートにも立ち寄っていただけたらと思っています。そういう風に、これからまた自分達の活動を続けていく中ではやっぱり、人っていうのが大切だと思つづくと思っています。

自立生活センターコムサポートは、信じる・笑う・繋がるこの3つをコムサポートの理念として掲げています。人と人とが信じあうということと利用者と介助者がつながること、センターと1人1人が信じあうこと、センターと人が信じあうこと。影でうやうや言わないこと、直接言いたいことはきちんと相手に向かっていうことそして笑が多い場所には人があつまるということ、自然に笑いがたくさん出る、そういう場所にしていこう、そうすれば繋がる。人を排除するのではなくて、色々な人がいるという場所だから一人一人の持ち味を大切にできる。そんな場所にしていこうということでこの近年、信じる・笑い・繋がるを掲げています。その中で私たちがまた道の駅として色々な活動を通していろんな人と繋がっていく中で、先ほど言っていた課題とか地域に発信していくことをまた考えて行きたいなと思っております。

そういう意味でもまた文福さんとも連携を深めて色々なことを教えていただいたり、協力していただいたり、また何か一緒にコラボレーションしていけたらと思うので宜しくお願いします。ということで一旦こちらからの話を終えたいと思います。

この後休憩をはさんで、質疑応答が行われました。

会場からは、どのようなことが大変だったか、日常的な活動内容や公共交通機関に対する対応、介護保険に関する質問などがあがっていました。

最も大変なこととして、障害当事者のスタッフを集めることを挙げられていました。自分の経験してきたことや考えていることを表立って言う人がなかなか出てこない。

思っていることや困っていることを一番、声をだせるのは当事者である。しかし、そのことを伝えていくことに関心をもっている人はいいが、関心のない人をどう巻き込むか。その点は本当に難しいこと。

また公共交通機関に関しては、バス会社との間で言い合いしてきた時もあったが協力するから一緒にこういう企画をしないか？という切り口で関係性を築いていった。実際には一緒に研修して、問題点や対応のスムーズさも挙げられて、改善もみられた。

当事者も相手方も含めて、一緒に安心して使える公共機関を一緒に考えていこうということで話し合いを重ね、現在も3ヶ月ごとに話し合いをしている。

介護と介助という言葉に関しても、「介護」は医療的に守られるイメージが強いので、自然に必要な「介助」という表現がしっくりくるので使っているとのこと。

介護保険については、コムサポでも対応しているが今のところ対象者がいない。これから対象者が増えて来るのは確実なので今から対策を考えている。

といった感じで、それぞれの質問に答えていただき、この講演を終わっていきました。

吉田さんをはじめ、コムサポの皆さん忙しい中ありがとうございました。

(コムサポの吉田さん達との写真)





◆今後の予定◆

このコーナーでは、文福と他団体の今後のお知らせを載せていきますので、チェックして、たくさんの方々にお越し頂ければと思います。よろしくお願いします。

◎ 「政治再設定のために——安保法制反対運動から考える」

日・時 4月24日(日) 13時30分～16時30分

場所 サンフォルテ 306号室

話し手 大野光明さん(大阪大学グローバルコラボレーションセンター・
特任助教)

参加費 1000円(資料代含む)

主催 25時行動員会・富山

TEL 090-7744-0122(藤岡さん)

◎ イベント企画や事務のお手伝い・他

日・時 応相談(随時)

場所 富山市障害者福祉プラザ・他

問い合わせ スペシャルオリックス日本・富山

TEL 090-3888-7608(渡辺さん)

*運営ボランティアを募集しています。

◎ イブにゃんお花見 ver.

日・時 4月16日 17時～

集合場所 サンシップとやま

参加費 4000円+α

◎ 「障害のある人の人権を尊重し県民皆が共にいきいきと輝く富山県づくり条例」

施行にあたっての富山駅前行動(街頭宣伝・ビラまきなど)

日・時 4月1日(金) 7時30分～8時30分

場所 富山駅前

集合 富山駅前(7時15分)

主催 富山障害フォーラム



ありがとう&編集後記コーナー

★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

今後よろしくお願ひします。

★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

早いもので、もう4月になりますね。春です。今月もいろいろと忙しい月だと思います。新しい年度が始まります。気持ちも新たに頑張っていきたいと思っています。

新規会員・継続・講読会員

内田 すえのさま □ 花川 香織さま

カンパ

河上 千鶴子さま 花川 香織さま

物品提供

奥野 加寿子さま 釜戸 竜太郎さま 林 衛さま 能登 泰子さま
フードバンクさま 升谷 千春さま

さて、今月号から表紙の内容と最後のページが変わりました。みなさん、どうですか？ 見やすくなりましたか？ 前の方が良かったとか、こんなのが良いとかまたご意見をお知らせください。

★☆☆☆☆☆☆☆☆ (アパッチ)